

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	tomoni			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 1日		～	令和7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名(16世帯)	(回答者数)	15世帯
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 1日		～	令和7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様のニーズや個々の発達過程における課題に応じた適切な支援内容及び目標設定による支援計画の作成。	それぞれの子ども家庭背景、学校での様子、個々の発達特性、発達過程への理解を常に更新し、個々の生活状況にしっかりと対応している様心掛けている。また、日頃から職員間でもケース会議や、子どもの姿の共有を行い、支援に対する共通理解を行っている。	保護者様だけでなく、学校の先生や主治医等、その子に関わっている関係各所との連携の強化を図っていきたい。
2	子どもたちの生活における具体的な姿を保護者様と共有しやすい雰囲気。	毎回送迎時に限らず、個別懇談会も定期的に行い、子どもたちの姿をお伝えしたり、ご家庭での様子をお聞きし、常に子どもたちの姿を共有できる関係作りをさせていただいている。	保護者様の日頃の子育てに対する悩みや困り事を、より気軽にご相談いただけるよう、懇談会の充実、保護者様同士の繋がりをより強化していき、支援や活動内容にもより一層保護者様の意見を反映させていきたい。
3	日常生活(地域・学校・社会)における自信や習慣を身に付ける為のプログラムを実施。ライフスキルトレーニングの視点を重視。	身近な生活に即した生活訓練や通年で行う活動、季節を感じられる行事等を子どもたちの姿に応じた課題設定を検討しつつ全職員で立案・計画している。	保護者様との連携の上、子どもの個々の発達過程や発達特性に応じたより具体的な生活目標や社会経験、子どもたちが目を輝かせられるような体験ができるよう、職員間でアイデアを出し合っていく。
4	保護者様同士の横の繋がり	定期的な懇談会だけでなく、懇親会を開催し、より多くの方に出席いただけるように工夫を行ったり、普段のイベントにも自由にご参加いただき、子どもたちの様子を見ていただくだけでなく保護者様同士の交流の場にもしていただけるようにしている。	より多くの方に参加していただける様、会の内容や開催時期等、保護者様と一緒に計画を行い、より良い会にしていきたい。また、今後保護者様だけでなく、きょうだい児の関わりが持てるような機会も検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域(地域の子ども)との繋がり、連携	地域の学童や地域の子どもたちとの交流の機会や、また地域の施設との連携を取る機会を設けられていない。	まずは、当事業所をご利用のお子さんの併用先との連携の強化を図れるよう、交流の方法等、事業所内で案を出し、相談していきたい。
2	非常時に備えた訓練等実施の周知	訓練の実施等を行った際のSNSでの発信が出来ていなかったため、今後しっかり発信していきたい。また、SNSを利用していない保護者様にも周知していただけるよう、お知らせする方法を複数準備するべきであった。	今後は連絡帳だけでなく、毎月のおたよりも活用し、訓練等の様子をより周知いただけるようにしていく。